

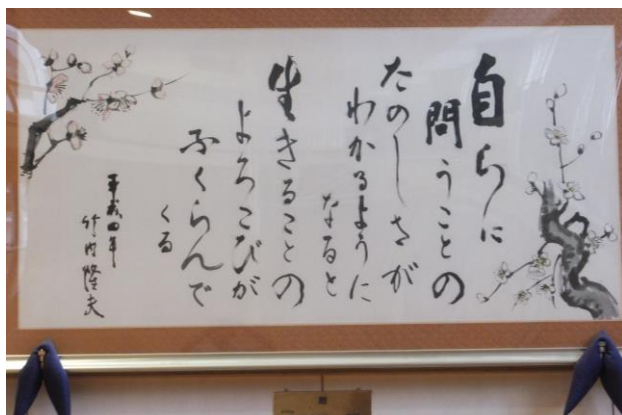
布施だより

《 西中創立 50 周年に向けて～西中学校の宝物①～ 》

来年 50 周年（昭和 41 年創立）を迎える篠ノ井西中学校の校舎内外には、50 年の歴史を物語る「宝」が豊富にあります。それは過去の遺物などではなく、「現在」に脈々と受け継がれてきている西中の精神であり、屋台骨でもあります。

初代学校長竹内隆夫先生（S41～43 年度）は、昭和 41 年 4 月 1 日の開校式の折、次のように全校生徒に語りかけました。

～信越線以西、市の中学生 919 名が参集して学習するにふさわしい堂々たる大校を私どものために用意して頂きました。当市の政治の中心である市役所は真に古くみすばらしいが、それをそのままにしておいて、まず教育を優先に考えられ、立派な校舎を二校も（東中と共に）建設して頂きました。校舎建築のために、周りで働いてくださる中で、楽しく勉強させていただくのは申し訳なく、そしてもったいないことと思いますが、わたしどもに課せられた使命は、寸暇も惜しんで勉強することであり、建設の音に励まされ、一日一日しっかり勉強させてもらうつもりです。どんな心がけで校舎を使わせてもらったらいいか、めいめいの宿題にしたい。誰にもすぐ分かることをひとつだけお話しすれば「校舎を汚さない」ということ。もし汚したならば後輩に対して大変恥ずかしいこととなります。もし万が一うっかり壊すようなことがあったら、どうしたらよいか。その時こそ西中の生徒だ。正々堂々と謝りに来なさい。人間は一生の間に失敗というものはあるものです。その時に責任を感じて心からお詫びできる明るい心の人になってほしい。そして、この明快な校舎に住むにふさわしい美しい心の人間になるよう努めましょう。～



その竹内先生の言葉「自らに問うことのたのしさが わかるようになると 生きることのよろこびがふくらんでくる」に「梅の花木」が添えられ、西体育館ステージ左に掲げられています。長野県下に「自問清掃（自ら問い、自ら答えを出して、行動する。）」を広めた竹内先生の願いが込められた額が、集会等での生徒諸君の思考活動と、保健体育の学習や部活動での躍動を見守り続けてくれています。

竹内隆夫先生は平成 23 年、76 歳で、その生涯を閉じられました。

校舎内外に受け継がれている「篠ノ井西中学校 50 年」の歴史を少しずつ探訪していこうと考えています。皆様で知っていらっしゃる歴史ありましたら、お教えてください。

《 658 の STORIES ～光り輝く永遠の思い出を～ 》

テーマ【658 の STORIES ～光り輝く永遠の思い出を～】で開催される「第 49 回銀河祭」の 1 日目に行われる「音楽会」の発表順序が 3 日（水）に生徒集会でありました。くじを引く度に歓声と拍手の、ドキドキワクワクの抽選会でした。次の文章は「音楽会」に寄せられた 3 年生生徒の感想です。

- ・時が進むのはすごい早いです。もう 3 週間後には銀河祭です。なんか、あっという間です。今日の音楽の授業では、永野先生に熱がこもっていました。いつもより長く、ずっと歌い続けていました。順番は最初です。3 年なので最初を頑張らないと。
- ・生徒集会がありました。一番最後に行われるメインイベント「音楽会抽選会」で音楽会の順番が決まりました。なんと〇〇君が、くじ運の強さを発揮し（笑）、私たちのクラスが第 49 回音楽会



のトリになりました。一番最後、音楽会のシメにふさわしい演奏ができるように、あと練習できるのは14日間ですが、一日一日を大切に、時間を有効に使っていただければ幸いです。

<9月26日(金)>		<9月27日(土)>	
・登校	8:10	・登校	8:10
・開祭式	9:00～ 9:30	・総合的な学習発表	8:50～ 9:10
・ステージ発表(意見発表、英語弁論)	9:40～10:15	・生徒会一企画	9:10～10:20
・総合的な学習発表	10:15～10:45	・洋裁部発表	10:30～10:45
・音楽会	12:45～15:55	・合唱部発表	10:45～11:20
1部(2学年) 2部(1学年) 3部(3学年)		・吹奏楽部発表	11:30～12:05
・下校	16:40	・閉祭式	13:00～14:00
		・下校	15:30

*多くの皆様のご来校をお待ちしています。

《 つぶやく学習集団 ～支え合い高め合う仲間たち～ 》

授業のパターン学習が教科会の共通認指導方針として定着がなされています。例えば英語科です。それは「Target sentence」であったり、「1 minute practice」であったり、「虫食い学習プリント」であったりします。そしてパターン追究をペアワークに据え、支え合う学習の着実な一歩としての真価が感じられます。生徒達は安心してパターン追究から導入されていきます。何よりも「つぶやき」が教室のあちこちから生き生きと聞こえてくる追究姿勢がなされています。学年が上がるに従って、「分からね～」というつぶやきが聞こえてくると、自然に「どこが？」と聞き返す協働追究の芽があふれてきます。そしてこれも学年が上がるにつれて、男女生徒のつぶやきを通しての関わりが増え、自然に学び合いがなされる良さが垣間見えます。参観していてうれしくなります。何が分からないかを分かっているのは、教師ではなくて生徒自身であるということに改めて教えられました。



そして先生方は困難に向かおうとする生徒に寄り添おうと、温かい眼差しを持って接してくれています。ひとりひとりの、そして追究集団全体としても学力を保障してやれるような、そんな局面に、丁寧に手を入れていることも西中の学習の良さです。

今年度の「学校グランドデザイン」にある学校運営の3本柱のひとつ「支え合い高め合う集団づくり」を「基礎・基本の学力の確かな定着」とあわせて、生徒諸君と一緒に追究する2学期がスタートしています。

夏休みのある日の午前中、生徒会活動に来てくれていた3年生男子2名が「人が倒れています。氷ください！」と息せき切って走ってきました。何名かの先生方で駆けつけると、中学校前の横断歩道先の道を右折した道路上にお年寄りの男性が横たわっていました。(自転車走行中に、熱中症が原因で倒れられたのであろうと思われる。)女子バスケット部3年生4名が発見してくれました。その方の周りでは10名程の3年生の生徒諸君が強い日差しからお年寄りの体を守ろうと自身の体で日陰を作ってくれたり、近所の方が持ってきてくださった濡れたタオルを額に当てたり、脇の下に入れてくれたり、体が熱くならぬようアスファルト上に水をまいてくれたり、救急車が来るまでお年寄りに寄り添い、ずっと体を気遣ってくれていました。救急車が到着し、警察署の方に事情を話し、篠ノ井病院へ搬送されるのを見届けると、生徒諸君はまたそれぞれの活動へ安心して戻って行きました。「人助け」を当たり前、そして協力してやり遂げる青年らしい表情でした。清々しく振る舞える青年に育とうとしてくれています。～夏休みの、温ったかくてしみじみとした収穫でした。

